

第4回百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会



平成10年洪水の様子（分流部上流側からの眺め）



築造当時における百間川分流部の仕組み

「百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会」開催される！

平成17年2月14日（月）岡山三光荘において「第4回百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会」が開催されました。

第4回協議会では、分流部に関する治水計画と市民団体を中心に検討された「津田永忠記念公園構想」との調整課題、及び地域住民の方々の意向把握の方法などについて協議されました。

なお、協議会での協議内容、配布資料、協議の経緯及び結果については、岡山河川事務所のホームページ（広報、閲覧コーナー）に掲示しています。

本号では、第4回協議会資料から、分流部に関する治水計画の概要を中心にご紹介します。



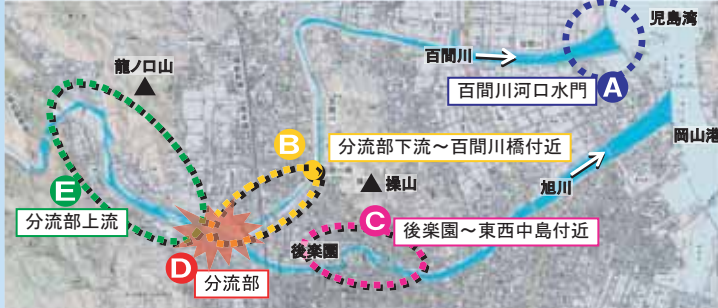
協議会の様子

旭川・百間川全体治水計画について

●旭川・百間川の課題と改修予定の概要

国土交通省では、旭川・百間川の改修を順次進め、平成9年には百間川の計画分流量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ に対応した百間川堤防が砂川を残し概成しています。今後の主な課題として次の5つを残しています。

【旭川・百間川の課題】



A 計画流量に対し水門が狭いため、堰上げが起きて、周辺の堤防から洪水が溢れることが予想されます。

洪水のイメージ

B 流下断面の不足により、洪水が溢れることが予想されます。

洪水のイメージ

C 城を取り囲む不自然な流路や、流下断面の不足により、洪水が溢れることが予想されます。

平成10年洪水の様子

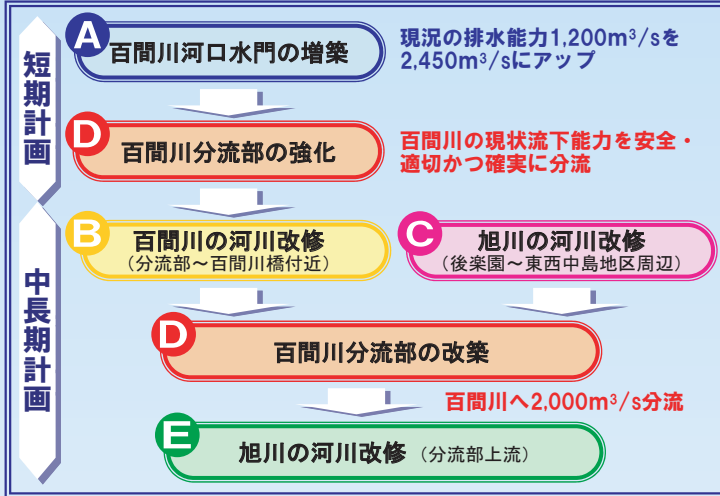
D 分流部が破壊した場合、洪水をコントロールする機能を失い、百間川へ計画以上の洪水流入が予想されます。

平成10年洪水の様子

E 流下断面の不足（土砂の堆積、樹木の繁殖）により、洪水が溢れることが予想されます。

分流部上流の様子

【旭川・百間川の改修予定】



●分流部の段階的整備の必要性

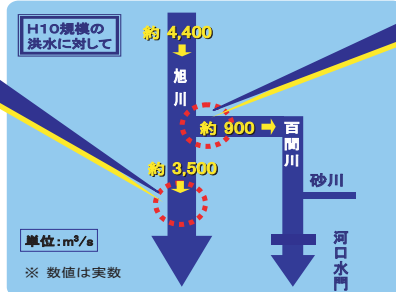
1 旭川の流下能力の現状

- 後楽園～東西中島付近の改修のためには、沿川家屋等の移転が必要で、合意形成までに長期の時間が必要となっています。
- そのため、できるだけ早く、かつ、少しでも多く、百間川への分流が必要な状況です。



現在のままだと・・・

- 分流部（一の荒手・二の荒手・背割堤）が破壊する可能性があり、破壊した場合、百間川沿川で浸水被害が発生します。
- 旭川東西中島地区にて浸水被害が発生します。



旭川沿川も百間川沿川も非常に危険な状況です。

2 分流部の治水能力の現状

- 百間川橋より上流にて、計画流量（ $2,000\text{m}^3/\text{s}$ ）に対する流下能力が確保できていない状況ですが、早期に分流部の機能強化が必要です。



洪水が堤防を越えると・・・



そのため・・・

百間川の流下能力に応じた
分流部の段階的整備が必要！

短期計画
現状流下能力

中長期計画
 $2,000\text{m}^3/\text{s}$

分流部の治水計画

●治水計画の概要

項目	短期計画	中長期計画
1 一の荒手	●越流部の高さを下げ、幅を拡げます。 ●減勢池、護床工を設けます。	●越流部の幅を、さらに拡げます。 ●減勢池も拡張します。
2 背割堤	●背割堤の高さを上げます。	※短期にて整備完了
3 周辺堤防	●高水護岸を整備します。 (左岸は緩傾斜堤防とします。)	※短期にて整備完了
4 河道整備	●百間川橋の改築までに低水路幅を拡げます。	
5 防災拠点	●河川防災ステーションを整備します。	※短期にて整備完了
6 二の荒手	●現況のまま保存します。	●低水路区間を切り下げます。

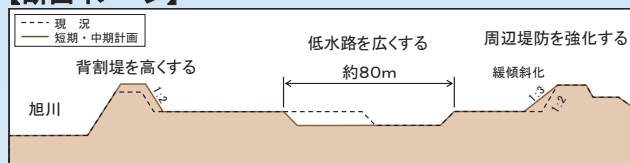


現在の様子

【治水計画による整備イメージ】



【断面イメージ】



① 一の荒手の整備計画

短期計画

目的

現況に応じた洪水を確実に流す分流機能を整備します。

整備内容

- 越流部の高さを下げ、幅を拡げます。
- 減勢池・護床工を設けます。

現況の様子



中長期計画

目的

計画流量に応じた洪水を確実に流す分流機能を整備します。

整備内容

- 越流部の幅を、さらに拡げます。
- 減勢池・護床工も拡張します。

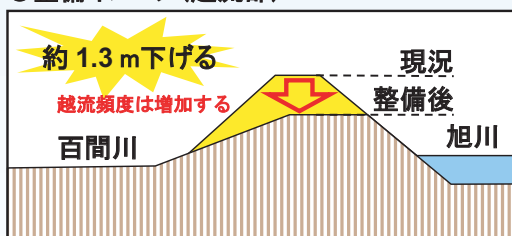
整備イメージ (短期計画)



整備イメージ (中長期計画)



●整備イメージ(越流部)



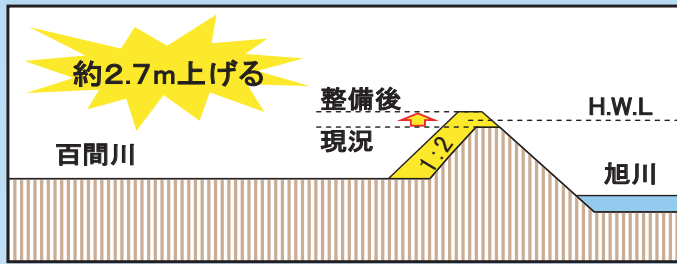
今回紹介している治水計画は、計画洪水を安全かつ適切に分流していくために必要な整備概要を整理したものです。第4回協議会にて、築造当時の分流部の仕組みや歴史的建造物を保存・継承する視点からの検討が求められています。こうした協議会からの意見を踏まえるとともに、有効活用との調整を図りつつ、この治水計画の改善を図っていく予定です。

② 背割堤の整備計画

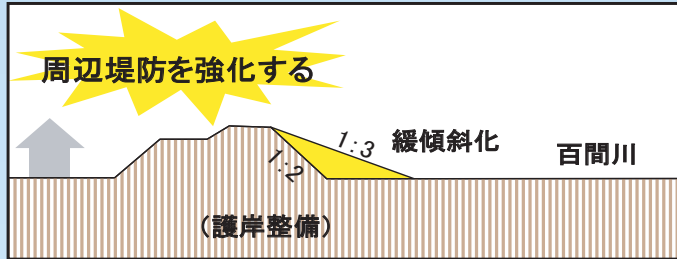
短期計画（整備完了）

- 目的**
計画の洪水が越流しない高さを確保します。
- 整備内容**
●背割堤の高さを上げます。

・整備イメージ（越流部前後の背割堤）



・整備イメージ（断面）



③ 周辺堤防の整備計画

短期計画（整備完了）

- 目的**
計画流量に応じた水衝部の安全性を高めます。
- 整備内容**
●高水護岸を整備します。（左岸：堤防の緩傾斜化）

・平成10年洪水時の様子

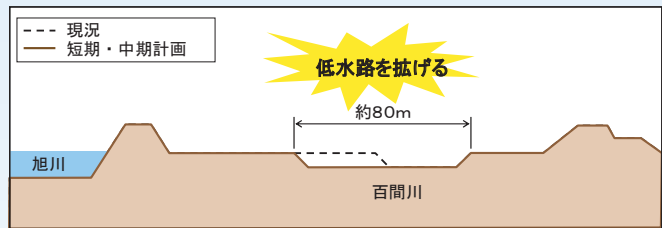


④ 河道（低水路）の整備計画

短期計画 中長期計画

- 目的**
計画流量に応じた洪水を安全に流すための河道断面を確保します。
- 整備内容**
●百間川橋の改築までに低水路幅を拡げます。

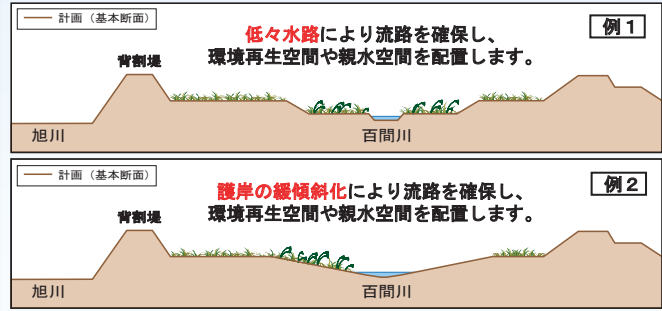
短期計画における基本断面



画一的な基本断面・平坦な河床に対し、必要な河道断面を確保しつつ、低々水路の設置・護岸の緩傾斜化など断面形状の工夫が可能です。

例えば…

自然環境や利活用に配慮した形状の検討



⑤ 防災拠点の整備計画

短期計画（整備完了）

- 目的**
広域的な水防活動拠点としての機能を設けます。
- 整備内容**
●河川防災ステーションを整備します。

■平常時の機能

- 交流機能**
- 河川をとおした交流拠点の場
 - 水害等河川情報の提供の場
 - 水防演習の場
 - 水防関係者の情報交換の場
- レクリエーション・便益機能**
- 地域住民が適切に利用できる場
 - 自然エネルギーの利用等、地域の規範となるような場
 - 集客性のある魅力ある場

■洪水時の機能

- 防災機能**
- 岡山市の水防活動における現場指令拠点
 - 水防資材の備蓄基地
 - 消防団員等水防従事者の待機休息の場
 - 住民の緊急避難場所
 - 情報の収集・発信基地



⑥ 二の荒手の整備

短期計画

- 現況のまま保存します。

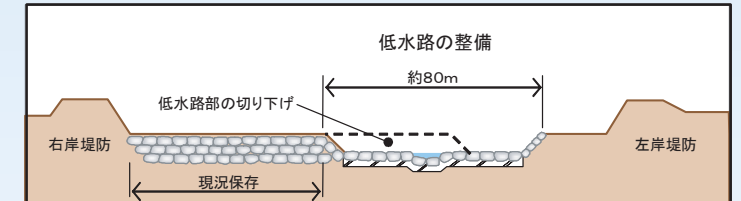
中長期計画

- 目的**
計画流量に応じた洪水を安全に流すための断面を確保します。
- 整備内容**
●低水路部を切り下げます。

●現況(短期計画)のイメージ(正面)



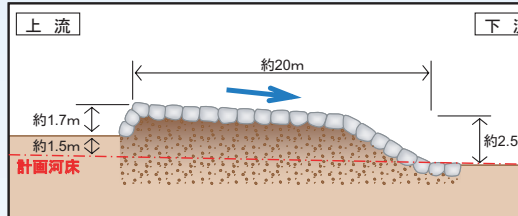
●中長期計画の整備イメージ(正面)



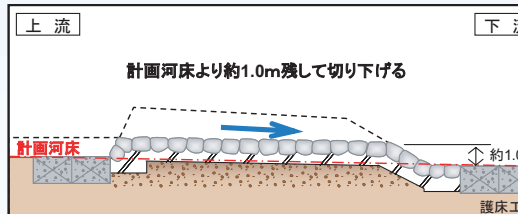
●発掘調査時の様子(平成6年3月)



●現況断面イメージ



●整備断面イメージ



第4回百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会開催

第4回協議会での協議の骨子、資料、主な意見概要は次のとおりです。

●協議の骨子

- 調整課題に対する具体方策について
- 今後の進め方と地域住民の意向把握手法について
- 次回協議会について

●資料

1. 旭川・百間川全体治水計画について
2. 分流部の治水計画について
3. 公園構想と治水計画との調整課題について
4. 今後の進め方と地域住民の意向把握手法について

●主な意見概要

分流部に関連した治水計画について

- ・元々の分流部の構造は、一の荒手と二の荒手の間に水を溜めて、洪水の勢いを受け止めるものであった。こうした津田永忠の技術を検証し、歴史的構造物を保存・継承する視点から治水計画を検討すべきである。流量が増えるため全く同じ形では無理だが、何ができなくて、どのように変更する必要があるかを提示して欲しい。
- ・治水計画として、洪水が堤防を越えた場合を想定した対策も考えられる。洪水を溢れさすというのではなく、例えば、100年に1回程度は溢れることもあり、その場合、人命を守り、床上浸水は防ぐ対策である。そこまで考えて、分流部の歴史的構造物を我々の世代で撤去して良いかを考えるべきである。

具体の調整課題、有効活用について

- ・高水敷を有効に使うことは良いが、分流部は川であって公園整備を優先するべきではない。河川本来の姿、河川環境面を考えた場合、ある程度、高水敷に洪水が乗る必要がある。
- ・防災ステーションは、水防活動以外の時は一般の利用ができるように配慮して、施設の中に、川の環境学習センター機能と地域コミュニティーセンター機能を合せて持たせて欲しい。また、地域住民から急病や災害時に対応したヘリポートの要望があり考慮して欲しい。
- ・整備方法として、グラウンドなど整備しやすいものを先行させることは止めて欲しい。ただし、防災ステーションは、防災面からの緊急性もあり、先行して取り組んで欲しい。
- ・現在グラウンドを利用している者としては、治水的に広さが縮小されたり、場所が少々移動することは、やむをえないと考えているが、できる限り現在の利用が継続できるよう考慮して欲しい。

地域住民の意向把握手法について

- ・アンケート調査や意見交換会は、本来、百間川全体を対象とすべきで、分流部周辺の学区以外についても、より多くの意見が伺えるよう広報方法などに十分配慮して欲しい。
- ・アンケート調査にて、一の荒手や二の荒手などの歴史的構造物を治水面から撤去することについての質問を加えて欲しい。また、イラスト等の工夫により、できる限り分かりやすいものとして欲しい。
- ・一の荒手、二の荒手、グラウンド等の取り扱いについては、是非、利用者や地域の方々への直接インタビューも行って欲しい。

今後の進め方、次回協議会について

- ・今回の討議にて、治水計画の根本について問いただす意見が出ており、これに対応した内容を提示すべきである。その上で、有効活用に関する討議に入る必要がある。
- ・意見交換会及びアンケート調査等による地域住民の意向把握については、次回協議会以降とすべきである。

協議会での協議内容、協議会資料の詳細については、岡山河川事務所ホームページ(広報、閲覧コーナー)をごらんください。また、意向調査等のご質問がありましたら、下記へご連絡をお願いします。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 調査設計課

〒700-0914 岡山市鹿田町2丁目4番36号 TEL 086-223-5101(代表) FAX 086-222-7835
岡山河川事務所ホームページ <http://www.okakawa-mlit.go.jp>